

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立錦小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

- | | |
|------|-----|
| ① 国語 | 38人 |
| ② 算数 | 38人 |
| ③ 理科 | 38人 |

5 留意事項

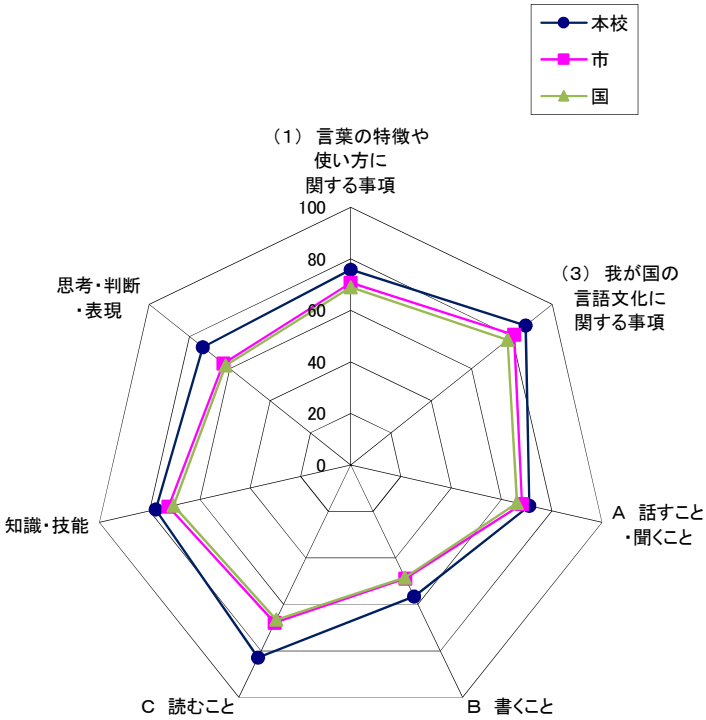
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立錦小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	75.8	70.7	69.0
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	86.8	81.1	77.9
	A 話すこと・聞くこと	71.1	68.2	66.2
	B 書くこと	56.6	48.9	48.5
	C 読むこと	82.9	67.9	66.6
観点	知識・技能	77.6	72.5	70.5
	思考・判断・表現	73.4	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

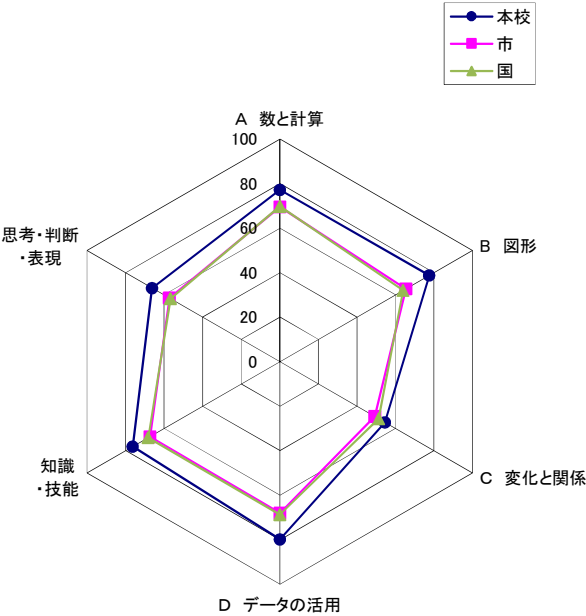
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	・平均正答率は、国の平均を6.8ポイント上回っている。 ○言葉には相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える問題では、正答率が国の平均よりも10.1ポイント高い。 ●文章の意味に合った漢字を書き取る問題では、字によって正答率にばらつきが見られた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の習得に当たっては、日常的に漢字の練習に取り組める環境を整え、さらなる定着を図っていききたい。また、定期的にミニテストを行うなど、読むだけでなく、書く力の向上を目指していきたい。 ・普段の授業から語句の意味や使い方を話題にし、児童が意識しながら文章を読み進められるようにしていきたい。また、家庭学習などと連携させて、言葉の意味を調べる学習に進んで取り組ませたい。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	・平均正答率は、国の平均よりも8.9ポイント上回っている。 ○漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く問題では、正答率が86.8%と国の平均よりも8.9ポイント高い。	・文章を書く場面では、文字の大きさや配列等に気を付けて書くよう学習に取り組ませたい。 ・古文、漢文に触れる場面では、歴史的背景に注意しながら読むなどして伝統的な言語文化への理解をより深められるよう指導したい。また、読書活動を充実させることで、わが国の言語文化に触れる機会を増やしていきたい。
A 話すこと・聞くこと	・平均正答率は、国の平均を4.9ポイント上回っている。 ○必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える問題では、正答率が89.5%と国の平均よりも4.8ポイント高い。 ●互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめる問題では、国の平均を上回っているものの、課題が見られた。	・スピーチをしたり、自分の考えを述べたりする場面で、話の内容が相手に正確に伝わるように資料を活用したり、根拠を示しながら説明したりすることができるよう、指導を行っていく。そのため、国語だけでなく、学級活動やその他の教科でも、互いに意見を交流できるような時間を作っていきたい。
B 書くこと	・平均正答率は、国の平均を8.1ポイント上回った。 ○文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える問題では、国の全国平均を4ポイント上回った。 ●文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける問題では、正答率が50%で国の平均より12.3ポイント高いものの、課題が見られた。	・文章を書く際には、書く目的を明確にし、内容を整理するための構成メモを作成するようにして、筋道の通った文章が書けるようにしていきたい。また、教科書の例文などを参考にして、自分の主張が明確にできるよう指導していきたい。 ・文章を書く時は、より分かりやすい文章を書くために、どのようなことを気を付けて書けばよいか示すなど、工夫しながら書かせるようにしたい。
C 読むこと	・平均正答率は、国の平均を16.3ポイント上回っている。 ○登場人物の相関関係について描写を基に捉える問題では、正答率が89.5%と国の平均よりも18.9ポイント高い。 ●表現の効果を考える問題では、他の読むことに関する問題と比べて正答率がやや低い。	・物語文を読む際は、登場人物の心情を捉えるために情景描写に注目し、そこからもたらされる表現の効果について考えるようにしていきたい。 ・読書活動も積極的に行うよう声掛けをし、児童が文章の内容をスムーズに読み取れるようにしていきたい。

宇都宮市立錦小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	77.2	69.5	69.8
	B 図形	77.6	65.4	64.0
	C 測定			
	C 変化と関係	54.6	49.3	51.3
	D データの活用	79.8	68.0	68.7
観点	知識・技能	76.3	67.3	68.2
	思考・判断・表現	66.2	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

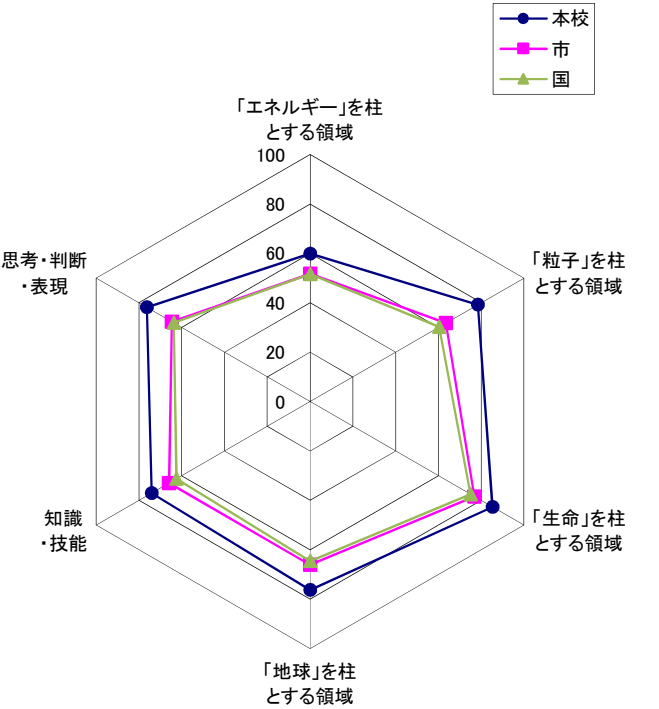
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	・平均正答率は、国・県の平均を7ポイント以上上回っている。 ○1050×4の問題以外は、全ての問題において国・県の平均を上回っている。特に、最小公倍数を求める問題では19ポイントを超えており、高い正答率である。 ●被乗数に空位のある整数の乗法の計算(1050×4)の正答率が低く、基礎的な計算を苦手としている児童がいると考えられる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・加法・減法・乗法・除法の基本的な技能の習得を図っていききたい。 ・問題場面の数量の関係を図や数直線で表し、筋道を立てて立式できるよう指導を続けていきたい。
B 図形	・平均正答率は、全国平均を13ポイント上回っている。 ○示されたプログラムについて、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す問題では、全国平均を20ポイント近く上回っている。示されたプログラムでかくことのできる図形を選ぶ問題でも、全国平均より16ポイント高い。 ●辺の長さや角の大きさに着目し、ひし形をかくことのできるプログラムを選ぶ問題は、全国平均より7ポイント高いが、正答率は7割であり、課題が見られる。	・図形の性質や構成要素に関する基本的な知識・技能を今後も高めていく。 ・プログラミングの問題に関して、平均正答率は高く、教科を問わずにICTを活用した学習が浸透していること、表れであると考え。今後も、あらゆる場面で習熟を図っていききたい。
C 変化と関係	・平均正答率は、全国平均を3ポイント以上上回っている。 ○百分率で表された割合と基準量から、比較量を求める問題では、全国平均より17ポイント高く、伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述する問題でも、全国平均より2ポイント高い。 ●平均正答率は全国平均より3ポイント高いが、百分率で表された割合を分数で表す問題と、数量が変わっても割合は変わらないことを理解する問題では、全国平均を下回っている。	・百分率で表された割合を分数で表すなどの、基本的な知識・技能をしっかり身に付けさせていきたい。 ・伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることは理解できていても、未知の数量の求め方に苦手意識をもつ児童もいるので、一つ一つ丁寧に指導していきたい。
D データの活用	・平均正答率は、全国平均を11ポイント以上上回っている。 ○目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取る問題では、全国平均を17ポイント上回っている。	・データから数量を読み取るために、「比べる」「整理する」という視点を働かせるよう支援していくことで、データを整理する観点に着目できるようにする。 ・統計的な問題解決活動を充実させることができるよう、日常生活や社会の事象と関連した事例を取り入れ、データを活用して判断したり、考察したり表現したりすることができるよう、指導していきたい。

宇都宮市立錦小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	59.9	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	78.4	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	85.3	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	76.3	66.1	64.6
観点	知識・技能	74.1	65.9	62.5
	思考・判断・表現	76.3	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	- 平均正答率は、国の平均よりも8.3ポイント高い。 ○実験に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書く問題では、正答率が50.0%と国の平均より14.9ポイント高い。 ●日光は直進することを理解しているかを問う問題では、正答率が23.7%と国の平均より4.1ポイント低い。	・缶の色や時間という視点や温度のキーワード等、比較するときの言葉を示し、自分の考えを記述するように指導を行う。 ・問題文をきちんと理解できていなかったことが考えられるので、問題文を読み、状況をしっかり把握できるような指導を行う。また、体験を通して理解が深まるような指導を行う。
「粒子」を柱とする領域	- 平均正答率は、国の平均よりも18ポイント高い。 ○メスシリンダーという器具を理解しているかを問う問題では、正答率が94.7%と国の平均より26.9ポイント高い。 ●自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容が記述できるかを問う問題では、正答率が国の平均より13.3ポイント高いが、52.6%と低い。	・器具の名称や正しい使い方に関しては、実験を行う度に確認し、実際に試してみることで理解を深めていきたい。 ・実験の結果から考察を行う時に、「更に試してみたいこと」という視点を持たせ、友達と意見を交流することで新たな課題を発見できるよう指導していきたい。
「生命」を柱とする領域	- 平均正答率は、国の平均よりも10.3ポイント高い。 ○自分の観察の記録と新たに追加された他者の観察の記録を元に、問題に対するまとめを見直して書く問題では、正答率が86.8%で国の平均よりも19.3ポイント高い。 ○資料を基に、カブトムシは育ち方と主な食べ方の特徴から二次元の表のどこに当てはまるのかを選ぶ問題では、正答率が94.7%で国の平均より18.6ポイント高い。 ●育ち方と主な食べ物の二次元の表から気付いたことを基に、昆虫の食べ物に関する問題を見出して	・表の見方や分類の仕方をよく把握して気づいたことと結びつけて考えられていなかったと考えられるので、問題文をよく読み、問われていることと結びつけて考える力をさらに伸ばしたい。
「地球」を柱とする領域	- 平均正答率は、国の平均よりも11.7ポイント高い。 ○夜の気温の変化について、他者の予想を基に、記録の結果を表したグラフを見通して選ぶ問題では、正答率が81.6%で国の平均よりも17.1ポイント高い。 ●結果から言えることは、提示された結果のどこを分析したものなのかを選ぶ問題では、国の平均よりも9.8ポイント高いが、正答率が55.3%である。	・観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、既習したものと比較検討しながら自分の考えをもつことができるように指導していきたい。

宇都宮市立錦小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「人の役に立つ人間になりたいと思うか」の質問事項では、「当てはまる」と答えた割合が92%と高く、全国の肯定的な回答よりも17ポイント高くなっている。また、「友達と協力するのは楽しいと思いますか」の質問事項でも、肯定的に回答する児童が県や全国の割合より高い傾向が見られる。自分のことだけでなく、相手のことも考えられる視点が育ってきていると考えられる。今後も学校生活を通して、幅広い視点や考え方を養えるように支援していきたい。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うか」の質問項目では、全員の児童が肯定的な回答をしている。今後も児童といじめの定義について考えたり、友達との関わり方という観点でも教師と児童で話していくことで、実際の生活の中でいじめのない生活が送れるようにしていきたい。

○「自分と違う意見について考えるのは楽しいか」の質問事項では、肯定的な回答の割合が84%であり、全国の割合と比べて約10ポイント高い。学習活動においてよく考え、意欲的に取り組んでいる児童が多い傾向が見られる。今後も更に教師が発問の仕方や学習方法を工夫していくことが大切であると考え。また、児童自身が学習の楽しさに気づき、深めることで、学習意欲の底上げを図ってきたい。

○「PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用したか」の質問事項に対して、本校の肯定的回答の割合は、約95%と高く、県、全国の肯定的回答を大きく上回っている。また、「学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うか」の質問事項に対して、全員の児童が肯定的回答をしている。今後も、各教科で効果的に活用できるよう、学習の質の向上に努めていきたい。

○授業の内容がよく分かったと肯定的に回答した児童の割合は、国語100%、算数97%、理科94%と高く、県や全国の割合に比べて上回っている。本校の児童の意欲を更に高めることができるよう、授業の工夫改善を行い、深い学びになる授業が展開できるよう努力していきたい。

●「普段、どれくらいの時間ゲームをするか」の質問項目に対して、2時間以上行くと回答した本校児童の割合は、約39%であった。また、「普段、どれくらいSNSや動画視聴をするか」の質問項目に対して、3時間以上視聴すると回答した本校児童の割合は、18%であった。全国と比較すると低い割合ではあるが、ルールを家庭で話し合う必要性を学年便り等で啓発していくとともに、児童指導や学級活動の時間に児童への情報モラルについて指導し、アドバイスを継続していきたい。

宇都宮市立錦小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	思考力・判断力・表現力育成につながる「自分の考えを書く活動」を習慣化する。指導の際に誤字訂正をして、正しい表記を確認できるようにする。	文章に対する感想や意見を伝え合い、文章のよいところを見付ける問題については、全国平均を上回っているものの課題が見られた。正しい漢字に書き表す問題では、正答率に個人差が見られた。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
算数における応用問題の正答率の向上	各単元における応用問題の反復練習。児童が見通しをもって解答できるようにするための教師による分かりやすい解説。	基礎・基本の定着を図り、単元ごとの応用問題を繰り返し復習する。ただ答え合わせをするだけでなく、どうしてその答えになるのかを理解できるように支援する。